

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2009.9.20

23

秋 期 企 画 展

からだをなおす ◆ くすりでなおす

—王子の万能妙薬と江戸・明治くすり事情—

いつの世も、願いは変わらず…

元気に生きたい

病から逃れたい

妙薬を手にいれたい



白沢像(複製) 内藤記念くすり博物館所蔵

会 期

平成21年10月24日(土)~12月6日(日)

休 館 日

毎週月曜日(ただし11/23は開館)、11/24(火)

開 館 時 間

午前10時~午後5時

会 場

特別展示室・ホワイエ

観 覧 料
無 料

秋の
企画展

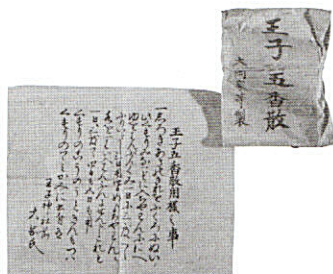
からだをなおす◆くすりでなおす

—王子の万能妙薬と江戸・明治くすり事情—

健やかに生きたい…いつの世も、誰しもがそう願います。さまざまな医療情報や薬があふれている現代社会に比べて、かつて人々はどのように健康を保とうとしていたのでしょうか。

医療環境が十分に整っていなかった江戸時代、まず人々は日々養生を心がけ、神仏に祈願しました。ひとたび病にかかれば、人々はいわゆる民間療法を試み、妙薬を求め、自力で病に打ち勝とうとしました。そして、北区王子にあった旧金輪寺が調査・頒布していた「王子五香湯(散)」も、その霊験への期待とともに、万能妙薬として広く知れ渡っていたのです。

本展では、江戸時代の人々の身体や病のとりえ方、売薬の発展ぶり、万能妙薬「王子五香湯」の実態、そして当時の人々と薬との関わりについて、多彩な資料を通してご紹介いたします。ぜひご観覧ください。



王子五香散・用法書(当館所蔵)



往診用薬箱(荻原通弘氏所蔵)

[関連イベント]

① 特別講演会「漢方医学と仏教医学の身体観」

日時：11月3日(祝・火) 午後2時～4時

講師：元東京理科大学薬学部教授 遠藤 次郎氏

定員：80名

申込：往復はがき 10月23日(金) 必着

※申込多数の場合は抽選

② 講座「歩いて知る! 江戸東京の薬種事情」(連続2回)

日時：[講義] 11月14日(土) 午後2時～3時30分

[見学] 11月21日(土) 午後1時～4時30分

講師：当館学芸員 久保堃企美子

定員：30名

申込：往復はがき 10月30日(金) 必着

※申込多数の場合は抽選

③ 企画展ミュージアム・トーク

日時：(1) 10月31日(土) (2) 11月28日(土)

(1)(2)とも午後1時30分～2時30分

定員：20名 当日先着順

講師：日本薬史学会会員・日本医史学会会員 荻原 通弘氏

当館学芸員 久保堃企美子

VOICE

ミュージアム・グッズの意義

博物館での展示見学後のお楽しみといえば、そのひとつに「その博物館ならではのミュージアム・グッズ探し」があげられるだろう。

近年、博物館のあり方が大きく変化するなかで、各博物館のミュージアム・ショップ、またその中で取り扱われているグッズの内容にも著しい変化が見られるようになってきた。従来に比べ、空間の雰囲気はぐっと明るく、また販売商品の種類も飛躍的に増し、図録・書籍の他にも展示資料を模した品から、展示資料に関連した日用品や食品に至るまであり、実に多岐にわたっている。

当館ミュージアム・ショップでも、開館時より雰囲気作りを行うとともに販売商品の幅を広げてきた。当初、展示図録・研究雑誌中心の品揃えであったものが、現在では展示資料を素材にした絵はがきや一筆箋、そして当館オリジナルキャラクターを素材にした缶バッジ、バッグ等の販売も行っている。

そもそもミュージアム・グッズとは何なのだろうか。それ

は第一に「来館記念のお土産的な存在」であり、第二に「自身の研究課題を深化させるための起爆剤的存在」である。博物館で得た知識・感動などを目に見える形にして、自宅に持ち帰るための手段の1つとなるとともに、そのグッズとの出会いが、自身の興味・関心のある事柄について、さらに追究していくためのきっかけとも成り得るのである。

今やミュージアム・グッズは、博物館の展示活動の一翼を担っているといっても過言ではない。当館では、ミュージアム・グッズの意義を念頭におきつつ、今後も継続して、独自の商品の開発・販売を展開していきたい。(0)



当館ミュージアム・ショップ

時代を超えて引き継ぐ志



吉宗の飛鳥山と定信の南湖と

石倉 孝祐

名所飛鳥山の起こりは、今から約300年ほど昔の享保4年(1720)、八代將軍徳川吉宗の桜植樹に始まります。享保の改革で名高い吉宗は、春の桜はもとより四季折々の景物に富んだ遊園の整備を行い、身分を越えて江戸の人々に潤いと楽しみの場を提供したのです。やがて時は移って18世紀の末期になると、享保の改革によって一旦は持ち直した幕府財政も再び傾きだし、社会の混迷も深まるなか満を持して登場したのが老中首座・松平定信です。

定信は徳川吉宗の孫にあたり、16歳のとき白河藩主の養子になったために將軍職に就くことはありませんでしたが、祖父にならって推進した幕政改革は、世に言う寛政の改革としてあまりにも有名です。都市経済の発達と農村の疲弊の矛盾のなかで必ずしも寛政の改革は成功したとはいえませんが、吉宗を敬慕すること篤い定信は、吉宗の行った飛鳥山の桜植樹の事績にも深い関心を寄せました。その証こそが、今も福島県白河市にある国指定史跡及び名勝の南湖公園です。定信は老中を退いた享和元年(1801)、「四民共楽の地」として南湖を一般に公開しました。もともとは葦が生い茂る大沼と呼ばれた低湿地に堰堤を改修し17勝16景を選び修景を施すとともに、吉宗の飛鳥山に倣ってたくさんの桜・松・楓を植えました。また吉宗の飛鳥山桜植樹を記念する「飛鳥山碑」と同じように、南湖公園には「南湖十七景詩歌碑」が建立されました。

やま水の 高さ低きも隔てなく
共に楽しき円あすらしも

この詩歌碑に刻まれた定信の和歌から、ひと所に集まり会することを意味する「円あ」=円居まどいに託した彼の願いが伝わってきます。また南湖の水は灌漑用水として学田新田の開発にも用いられ、新田からの年貢は藩校立教館の経営に充て

られるなど、「四民共楽」の遊園の思想は次代を担う人材育成にも役立ち、定信の志の高さが知られます。まさに大地・水・人をつなぎ和楽の地を築くという志は、吉宗開園の飛鳥山に発端し、ここ定信の南湖に大きく広がったといえましょう。

今年、誰もが気軽に飛鳥山の行楽を楽しめるために、JR王子駅中央口を出てすぐの場所に、23区初の公園昇降モノレールが整備されました。ゆっくりと飛鳥山の頂へと登る車窓から周りを眺めると、江戸の世とは大きく変貌を遂げた現代の北区の町が広がっています。しかし今も昔も変わらないことは、人に優しい社会の実現と、その心を育てる次の世代への文化遺産の継承なのではないでしょうか。飛鳥山公園全体をひとつの大きな自然資料・文化資源と考える北区飛鳥山博物館に課せられた使命(ミッション)の重さを、ひとりの学芸員として今一度静かに噛み締めている毎日です。



飛鳥山からの展望

Close up!

十条

J U J O

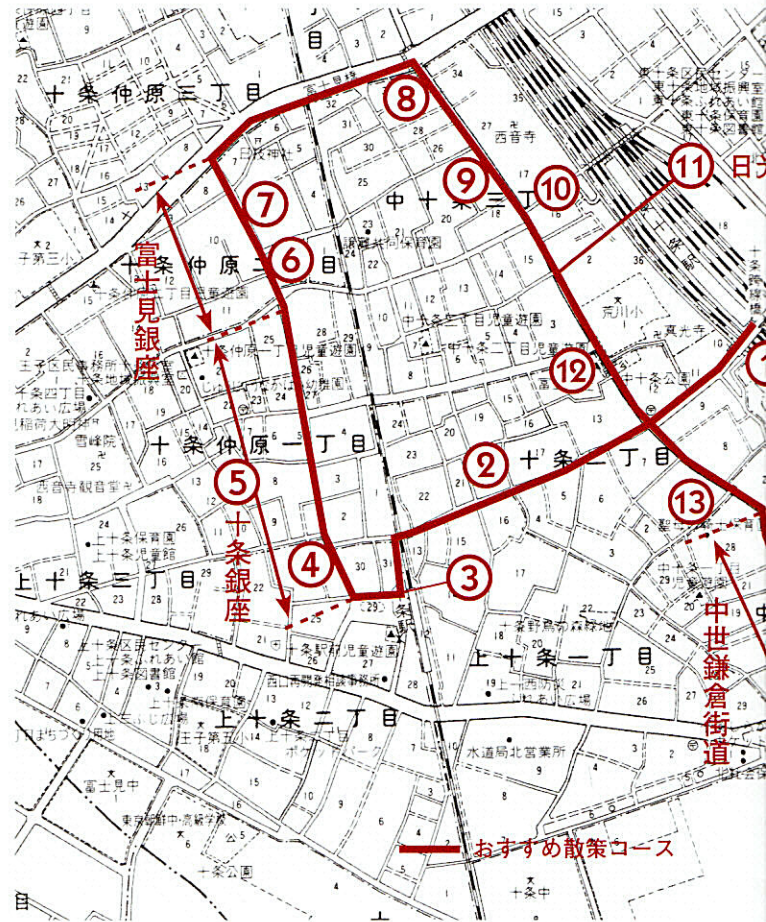
十条といえば十条銀座商店街が有名ですね。すごく活気にあふれていて、ついつい余計に買い物しちゃいそう。なんでも東京三大銀座商店街の一つなんだとか。そんな賑わいのある街十条でも、歴史を感じさせてくれるものが、そこかしこにひっそりと佇んでいるのです。道端の庚申塔や昭和を感じさせるお店、今でも信仰を集める富士塚など。そうそう、普段通っている道だって、鎌倉時代にまで遡るんです。さあ、そんな歴史の断片が拾える十条をクローズアップ!

わが町のおふじさん ~十条富士~

みなさん、ここ十条に三十数歩で登頂できる富士山があるのをご存じですか？ 通称「おふじさん」。江戸時代に、霊峰富士を崇める人々によって築かれた小高い塚です。人々は富士登山することでその靈力に触れようとしたが、当時の富士山は女人禁制で、道中も危険がいっぱい。そのため、女性や老人でも登拝できるようにと、身近な場所に代わりの富士塚を築いたのが始まりです。昔の人の信仰心が息づくおふじさん。七月一日の山開きの日には老若男女たくさんの方が集まって大いに賑います。本物の富士山に登って下界を見下ろすのも良いですが、十条の小さなおふじさんを訪ね、富士信仰の歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。（飯）



住宅街に「富士山」出現!



十条散策コース案内



① 東十条駅前の庚申塔



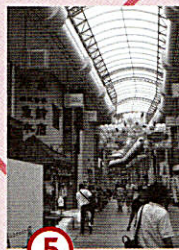
② 今も大人気の篠原演芸場



③ 十条駅開業70周年の記念です



④ チャーハンではないのです!



⑤ 活気のある十条銀座



⑥ なつかし〜いお店の前のアイスボックス



⑦ 不思議なクマがお出迎え



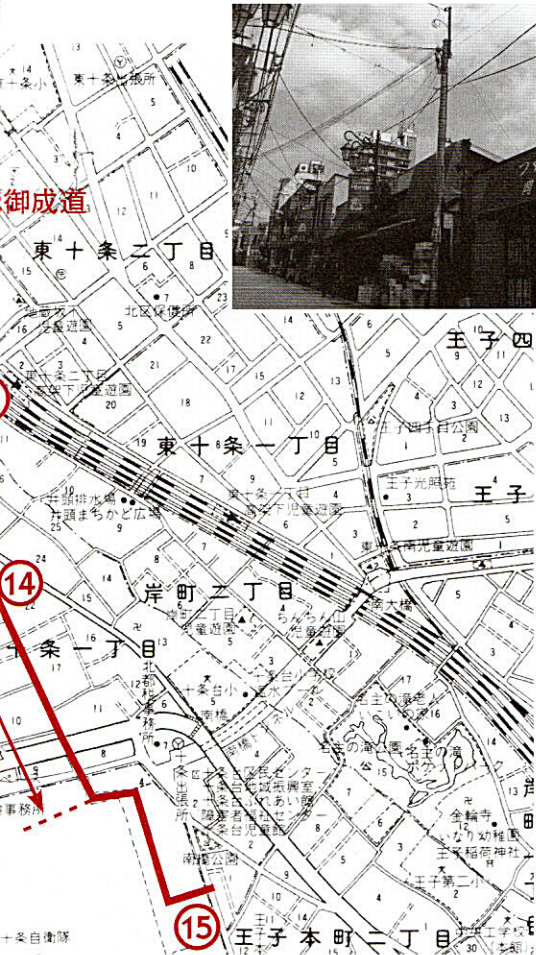
⑧ ひっそりと佇む庚申塔

長いアーケードを抜けるとそこは…

十条駅西側には十条銀座があります。大正末から発展し、今も活気に満ち溢れています。その長いアーケード街を抜けると、ふと青空が広がります。ここがもうひとつの銀座、富士見銀座です。昭和がそこかしこに残っている古きよき時代の商店街です。最近では見かけなくなったつつかしいアイスボックスや、昔ながらに豆腐が作られ、売られているお豆腐屋さん、なぜかクリスマス帽をかぶったクマが「味が自慢」とおすすめする中華料理屋など、懐かしさと面白さが入り混じった商店街です。十条銀座にこられた方はもうひとつの銀座にも足を伸ばしてみればいかがでしょう。 (松)

いざ、鎌倉！～十条にのこる古道～

十条には中世鎌倉時代の道が残っているって知ってましたか？ 十条自衛隊の敷地内の発掘で明らかになった中世古道は「鎌倉街道中ツ道」の可能性があり、その延長線上に今でも道が通っているのです。一見どこにでもあるような道ですが、過去から現代へと受け継がれる数少ない貴重な道なのです。道路はアスファルトで舗装され、道の両側には家屋が立ち並び、残念ながら当時の面影は想像も付きません。しかし、一度歩く価値はあるはず！ 「鎌倉時代の武将が馬で駆け抜けた道を、私は自転車で駆けたの！」なんて、自慢できるかもしれませんね。 (悠)



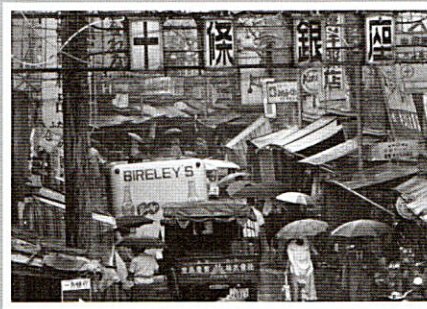
青空が広い商店街はここだけ!



この道の先には鎌倉が…

思い出写真館

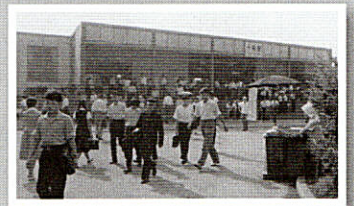
雨の十条銀座



いにしへの篠原演芸場



朝の通勤通学風景(十条駅)



10

門前の地蔵 (西音寺)



12

富士山に登頂せよ!



14

なんとわびしい…



9

昔の雰囲気のある建物



11

江戸の旅人も通った日光御成道



13

そびえる大松(地福寺)



15

赤レンガ倉庫(旧陸軍施設)を活かした新中央図書館



イベントレポート

飛鳥山にお弁当箱がやってきた!

当館では3月22日から5月10日を会期として、「アスカヤマ・遊山弁当箱プロジェクト 伝えたい日本の美」を開催いたしました。展示に当たっては、世界的な寄木細工のコレクターである金子皓彦氏、また多彩なお弁当箱の収集家である瀬戸昇^{のぼる}氏、そしてガラス工芸品収集で名高いアルフィーの坂崎幸之助氏の全面的なご協力を得て、江戸時代から昭和初期に至る全115点に及ぶ精緻な装飾を施した貴重なお弁当箱や桜の意匠を施した工芸品、絵はがきなどを特別展示室いっぱい^{てらひこ}に列品いたしました。

おかげさまで区民の皆さまをはじめ北は北海道から南は宮崎県に及ぶ18,521人の入場があり、お客様方の匠の技への深いご関心のほどを知ることができました。

また会期初日と最終日の2回に亘って、金子皓彦氏、瀬戸昇氏によるギャラリー・トーク「寄木細工の美と弁当箱の魅力」を行いましたところ、講師のお二人から資料の見所や鑑定の壺、さらにはご収集の裏話なども交えた楽しいお話をお聞かせいただき、観覧者の皆さまを大いに沸かせ、

Event Report

企画展担当者としてもたいへん興味深い催しとなりました。

回収されたアンケートには「名所飛鳥山らしい好企画」「春のお花見の季節にふさわしい展示」「綺麗で素晴らしい寄木細工」「未来に残したい貴重な技」などなど、たくさんのご意見、ご感想を頂戴いたしました。ありがとうございました。(1)



写真に見る

あの□・この□

王子映画館街

街を行き交う人たちが今にも動き出しそうなこの写真は、昭和30年代に王子一丁目で撮影されたものです!

さて、当時の地図を参考にこの写真をみると、左手前に見えるのが「王子新天地自由劇場」、その奥が「王子レコード劇場」です。写真の右側の空き地前に置かれた看板を、お父さんと娘さんでしょうか、なにやら二人で熱心に眺めています。この写真では見えませんが、右に進むと「王子トーコー劇場」「王子国際劇場」などがありました。きっとこれから一緒に観る映画を選んでいられるのでしょうか。今も昔も変わらない風景です。

この風景が記憶にある方もいらっしゃるかもしれません。この頃、王子の駅前にも映画館が軒を連ねていました。徐々にテレビが普及し始めた時代とはいえ、一家に一台とまではまだいわず、東京や地方の都市部各所で映画街(映画館街)は娯楽を提供する場として多くの人に親しまれました。

ちなみに写真左に看板やのぼり旗で「天下の副将軍」の文字が

みえます。これは昭和34年に公開された月形龍之介主演の水戸黄門シリーズ第12作目、いわゆる月形黄門の最高傑作と評価される「水戸黄門 天下の副将軍」(東映)が上映されているのでしょうか。写真の中の皆さんも美空ひばりさんの歌唱シーンその声に聞き惚れていたのでしょうか。(平)



みちしるべ

道標(複製)

展示大項目「日光御成道の風景」のゾーンに寛政6年(1794)3月に造立された道標のレプリカが立っています。元の道標はかつて王子大坂の坂上、本町通りと交わる付近にありました。道路拡幅工事の際に一旦は金輪寺阿弥陀堂境内に移され、昭和60年代に再度旧郷土資料館敷地内に移されたものです。道標正面には、「奉納王子稻荷大明神」左側面には「西 是より川口道」右側面には「東 是より王子道」と彫られています。川口と王子を結ぶ道は勿論日光御成道。この道標を特定する歴史資料はこれまでなかったのですが、日光東照宮宝物館蔵「日光山道中図絵」には街道から王子稻荷社に入る角地に標柱の記載があることが判りました。位置的にみて当該資料であった可能性があります。恐らく博物館で展示しなかったら、一般には触れることが乏しかった資料の1つでしょう。(守)



道標「奉納王子稻荷大明神」

博物館インフォメーション

人物 往来

本年3月31日をもって、井上綾子学芸員が当館を退任されました。3年の間、専門の口承伝承を中心にした楽しい講座などを担当し、大いに活躍してくれました。本当にお疲れさまでした。また後任として4月1日より平澤佑加子学芸員(写真)が着任いたしました。何事にも意欲満々の若手です。今後ともよろしく願いいたします。



平澤学芸員

実習生を受け入れました!

8月4日から16日までの約2週間、博物館学芸員資格取得を目指す3人の大学生が当館で博物館実習をおこないました。夏のわくわくミュージアムの講座アシスタントや、「ぼいす」の館外取材など、毎日多彩な業務に勤しみ、文字通り館のメンバーとしてがんばってもらいました。今後の進展と精進に大いに期待します。



講座のアシスタントで活躍中

北区の昔を伝えるモノ

資料や写真を探しています!

当館では、地域で使われていた生活用具や古い写真など、昔の暮らしがわかる資料を探しています。お心当たりのある方は、ぜひ当館(電話03-3916-1133)までご一報ください。

北区飛鳥山博物館の再整備

北区飛鳥山博物館は来年3月、開館12周年を迎えますが、より分かりやすく楽しい博物館をめざし、現在、博物館再整備の準備を進めています。どうぞご期待ください。

秋 [9月~11月]

- 特別展覧会「第8回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」(9/12~10/12)
- 講座「新・遺跡探訪」(10/24・25)
- 秋期企画展「からだをなおす◆くすりでなおす—王子の万能妙薬と江戸・明治くすり事情—」(10/24~12/6)
- 特別講演会「漢方医学と仏教医学の身体観」(11/3)
- 講座「歩いて知る! 江戸東京の薬種事情」(11/14・21)
- 企画展ミュージアム・トーク(10/31、11/28)
- ここに注目! 常設展ミュージアム・トーク(11/1・8・15・22・29)

冬 [12月~3月]

- 講座「中世講座・鎌倉探訪」(12/1・2)
- 講座「幻の江戸東京野菜・大蔵大根の産地を探る」(12/9)
- 講座「第2回『絵本江戸みやげ』を読み解く」(12/5・6・12・13)
- 講座「第18回新聞から読む考古学 2009年下半期」(1/30)
- 講座「第9回あるけおろじー アマヌマ駅家から武蔵国府へ」(2/6・11・13)
- 講座「桜の愛好と文化」(3/6)
- 講座「考古学と保存科学—考古資料が博物館に並ぶまでの軌跡をたどる—」(3/7)
- 講座「第3回『絵本江戸みやげ』を読み解く」(2/27・28・3/13・14)

お知らせ

●ふるさと北区区民まつり・文化の日は無料観覧となります!

10月3日(土)・4日(日)・11月3日(祝)は常設展示室を無料でご入場いただけます。この機会にぜひご覧ください。

●コミバス1日乗車券利用の方に特典!

コミュニティバスの1日乗車券をご利用される方は常設展観覧料が2割引になります。受付にてお示しください。

●年末年始の休館日

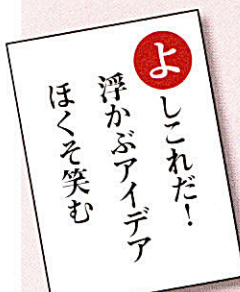
平成21年12月28日(月)~平成22年1月4日(月)

学芸員リレーエッセイ

博物館いろは歌留多

学芸員の仕事はアイデア勝負。展示にしる講座にしる、何か今までにない視点、他ではやっていない方法・技術など、新しいことにチャレンジしたくなるものです。でも、そう

ボンボンと新しいアイデアが浮かぶものではありません。他の学芸員はいざ知らず、私は特に産みの苦しさをいつも味わいます。仕事中パソコンとにらめっこしていてもなかなか絞り出せないアイデアですが、ふとしたことで電灯がともるときがあります。それは意外にも電車の中で吊り広告を何気なく見ているときや、テレビのクイズ番組にお腹を抱えて笑っているとき、1日の疲れをいっばいの(OneではなくMany)お酒で癒しているとき、神が降りてくることのあるのです。「そうだ、これだ! いけるかもしれない。」そんなときは自然と笑みが浮かんできます。電車の中で、あるいは居酒屋でほくそ笑んでいる私を見かけたときは、きつといいアイデアが浮かんだときです。気味悪いかもしれませんが、そっとしておいて下さい。(でも私が誰かわからないですよね) (直)



利用のご案内

【開館時間】

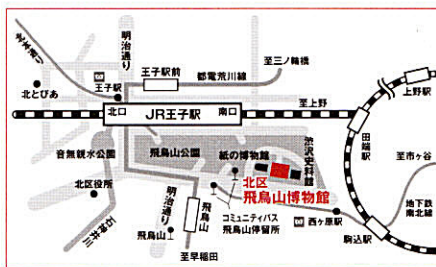
午前10時から午後5時
(有料の展示室への入場は午後4時30分まで)

【休館日】

毎週月曜日
(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)
年末年始(12月28日~1月4日)
このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
小・中・高	100円	80円	240円



- ・JR 京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
- ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
- ・都電荒川線 飛鳥山停留所より徒歩4分
- ・都バス 草64、W40系統 飛鳥山停留所より徒歩5分
- ・北区コミュニティバス 飛鳥山停留所より徒歩3分

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧ください。

編集後記

今年の夏は気候不順の上に、各地では激甚な災害をもたらせた水害もありました。しかし旧盆を過ぎると晴天が続く、飛鳥山公園では噴水で水遊びを楽しむ子どもたちの歓声があがり、またサンゴジュがいっぱい赤い実をつけ青空に映えました。

これから涼しい季節を迎えますが、秋冬もこの飛鳥山で皆さまのご来館をお待ちしています。(1)

北区飛鳥山博物館だより

ぼいす23

発行日 平成21年9月20日
編集 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
発行 東京都北区教育委員会
〒114-0022 東京都北区王子本町1-2-1
TEL. 03-3908-1111(代)
印刷 羽陽美術印刷株式会社